

八幡奈多宮は西暦 729 年に宇佐神宮の分岐神社として建立された。それは八幡造形式、すなわち八幡崇拜に特有の建築様式で建てられている。本堂を覆う斜めになった軒のある二つの長い切り妻の屋根は宇佐神宮そのものの設計を思い起こさせる。この神社は訪問者達の穢れを海に投げ込むことによって浄化するという儀式の歴史的に重要な敷地である。神社の位置は、海に異常に近い場所にある淡水の泉の発見によりほぼ確実に影響されていた。浜辺から少し離れたところに、春分・秋分の時の月の出に合うよう調節された鳥居が追加されている。